

このコーナーでは、農業のちょっとしたコツを、市の営農指導員からお知らせします。

営農指導員のワンポイントアドバイス

営農指導員 永興ながおこ
はじめ

栽培しやすく売りやすいアスターの栽培

経営上の特性

アスターには昔ながらの仏花向けの花形と、花束やテーブルにも飾ることができるような洋花的な花形の2種類があります。

仏花向けの花形のアスターは露地栽培で盆や9月の彼岸に向けた出荷の作型を中心としますが、洋花的な花形のアスターは市内ではビニルハウスでの雨よけ栽培とし、7月から10月の間で平均的に出荷するのが良いでしょう。



作型

夏から秋まで出荷できますが、ここでは一般的なお盆出荷の作型を説明します。

播種はくしゅ（種まき）はハウスやトンネルで3月下旬から4月にかけて行い、約1カ月後に畑に定植しま

す。その場合、切り花出荷は7月下旬から8月上旬くらいになります。

播種

アスターは立ち枯れ病にとても弱いので、種まきを行う土は土壤消毒を行うか、市販の播種用土を使用します。

播種したら種子が隠れる程度に土で覆います。発芽後は立ち枯れ病の発生を抑えるため、灌水かんすい（水やり）を控えるにします。

定植と管理

本葉が4〜5枚くらいの時に定植を行います。定植前に基肥として窒素、リン酸、カリを分量でそれぞれ1〜1.5キロ施用しておきます。

植え付けの間隔は条間25〜30センチの2条植え、株間は12〜15センチ程度とします。倒伏防止のため、1マス15センチ角のフラワーネットを張ります。

病害

先述のとおり、アスターは立ち枯れ病にとても弱いので、まずは立ち枯れ病に強い品種を選ぶことが重要です。

また、連作しないことや、土壤消毒することなどが大切です。

問い合わせ

農業振興課農業振興係
☎0824・73・1131

庄原が好き



下高自治振興区
地域マネージャー
向田 富美恵さん

つながりの場「こころ」

「子どもを連れて出掛ける場所がない」「引越してきて周りに知り合いが少ない」「おしゃべりできる仲間ができたらいいな」という母親のために集える場所を作りたい、自治振興センターをもっと利用してもらいたいとの思いから、下高自治振興区は、毎週木曜日に自治振興センターの和室を開放しています。

地域の広報紙で名称を募集し、「ことごと」という名前に決定しました。「ことごと」とは、「散歩するように」とことごと行ってみよう」という意味です。

「お母さんが楽しいとみんなが楽しい」

子どもたちは床にゴロンと寝転がりたり自由に歩き回ったりしています。母親同士でも「今日の夕飯何にしよう」「イベントしたいね」などとおしゃべ

このコーナーでは、人と人とのつながりを大切にしながら、自発的なまちづくりに取り組む皆さんをシリーズで紹介しています。

りしています。

また、おもちゃや絵本を贈ってもらったり、リンゴ農家からリンゴを差し入れてもらったり、地域の皆さんにも温かく見守られています。

「ゆっくりできた。また来るね！」「楽しかったよ！」と言葉を掛けてもらえることもうれしいです。

「お母さん」が楽しいと、みんなが楽しくなると思います。「お母さん」のつながりの場が、子どもたちや地域を元気にできると思っています。

#庄原が好き



SNSの投稿募集中
「#庄原が好き」で投稿！



問い合わせ

自治定住課定住推進係
☎0824・73・1257